

企画講座

お伊勢参りの今昔 講師 太田 光俊 三重県総合博物館学芸員・博士(文学)

江戸時代のお伊勢参りは徒歩がほとんどでした。現在は、JR、近鉄といった鉄道や、高速道路や国道利用のバス、乗用車などいろいろな交通路、交通手段が選択可能です。本講座では、江戸時代のお伊勢参りの様相を中心に、現代にかけての交通機関、旅の形態の変容を取り上げます。江戸時代の御師屋敷での豪華なもてなしは有名ですが、駕籠などののりものは豪華だったのでしょうか。明治の鉄道開通は何をもたらしたのでしょうか。

日時 12月13日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

銀に変身する粘土 講師 堤 美香 銀工房 源之屋 インストラクター

日本の銀は戦国時代までに、各地の銀山で発掘がはじまりました。のちに石見銀山や生野銀山で大規模に採掘がおこなわれ、主に貿易品、通貨、宝飾品として使用されてきました。時代劇を見ていると銀製の豪華なかんざしをさしたお姫様を見かけますよね。現代でもシルバークセサリーは大変人気があります。

そこで今回、銀粘土(アークレイシルバー)を使ってペンダントトップを作ってみよう企画しました。成形→焼き→磨きの行程で輝きのある銀のペンダントトップが出来上がります。粘土状の物が銀の装飾品になるのは、ちょっと不思議ですね。世界にひとつ自分だけのオリジナルペンダントトップを作ってみましょう。

※材料準備の都合により、12/8に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 12月15日(水) 13:30～15:30 参加費 会員 3,300円 ビジター 3,800円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

お正月の花 講師 竹澤 幸甫 鯉嶋御流正教授

今回の正月のお花のテーマは「不老長春」、材料は松と薔薇、なにそれ？と思われるのもごもっとも、実はこれ昔からあるおめでたい取り合わせなのです。松は不老樹、薔薇は四季を問わず咲くので長春花と言われ、松に薔薇を配した図を不老長春図といい、文人画家が好んで描きました。この素材でお正月のお花を生けると松はいつまでも枯れないので薔薇さえ変えれば1月中持ちます。薔薇の色も赤や黄色、ピンクなどその時のセンスで生け換えられますのでお得感が増します。(花包み・花切り鋏・タオルなどをお持ちください) ※材料準備の都合により、12/15に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 12月23日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 3,800円 ビジター 4,300円(花材費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

津藤堂藩の幕末から維新 講師 松尾 篤 津市教育委員会生涯学習課長

大河ドラマでクローズアップされた明治維新前後の様子、幕府軍の悲惨さに心が痛みますが、明治政府のてんやわんやぶりもさもありなんと妙に納得します。秋は幕府方についた桑名藩の悲劇的なお話でしたが、今回は新政府側について津藩の幕末と維新についてのお話です。京都の鳥羽伏見の戦いは、はじめ幕府軍が有利であったのですが、形勢が逆転したのは津藩が新政府側に寝返ったからというのが定説になっていて裏切り者の烙印をおされ、後の世まで不名誉な汚名をきせられています。しかし本当のところは少し違うようです。「伊勢は津で持つ津は伊勢で持つ」と歌われたような繁栄をもたらした津藤堂藩の真の姿を語っていただきます。

日時 12月24日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢の神像 講師 瀧川 和也 三重県総合博物館調査・資料情報課課長

神の像と聞いて思い浮かべるのはキリスト像とか12使徒像とかキリスト教関係のものか、またはヒンズー教の神ですよね。神道の神像は山とか岩とか木とか元々が自然崇拜なので人の形としてはごく少数しかありません。中でも有名なのが熊鷹山金剛證寺にある雨宝童子立像です。空海がこの山において天照大御神16歳の御姿を感得して彫ったとされ国の重要文化財になっています。また2100年前の創建と伝わる鈴鹿市の伊奈富神社には平安時代の作とされる第10代崇神天皇の木像と伝わるものや隨身像、狛犬15軀が残されています。また、多気町の御霊神社(河田神社)には平安時代の作とされる木造の神像2軀があります。こんなにあるとは思ってもよらないことですね。神像という言葉が文献に初めて現れるのは8世紀後半の「多度神宮寺伽藍縁起并資財帳」だそうです。これも国の重要文化財になっています。三重県ってすごいと思いませんか？

日時 1月17日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

はじめての花結び～小さなおひな様～ 講師 川本 美香子 日本結び文化学会会員

「花結び」は一本の紐を手で結び、花や蝶、紋などの形をつくる飾り結びです。「結ぶ」という行為には、長い歴史と伝統に培われた美しさが存在しています。古代人は、その結び目に神の御心が宿ると信じていました。仏教の伝来と共に花結びが伝えられると、花結びの文化は一気に花開きました。そんな優美な結びを現代風にアレンジして楽しんでみましょう。昨年コロナウィルスの影響で中止となった花結びでつくるおひな様講座。ご好評をいただいておりますので、今年再挑戦いたします。高さ5センチほどの小さなおひな様は玄関や棚など、ちょっとしたスペースにピッタリのサイズです。豪華絢爛なおひな様も素敵ですが、手づくりの心を込めて作ったおひな様もまた素敵ですよ。ぜひ今年の桃の節句に手づくり雛を飾ってみませんか？(筆記用具・ハサミ・ピンセット・まち針(二本)を必ずお持ちください) ※材料準備の都合により、1/10に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。 ※講座時間が午前の部と午後の部に分かれます。ご希望の時間でお申し込みください。

日時 1月19日(水) 午前の部 10:30～12:30・午後の部 13:30～15:30
参加費 会員 2,700円 ビジター 3,200円(材料費含む) 場所 五十鈴塾右王舎 定員 各回7名限定

倭姫命の御巡行地を訪ねて その1 講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

令和4年は倭姫宮創祀100年の節目の年となります。この佳年にあたり、シリーズで天照大御神を五十鈴の川上にお祀りされた倭姫命の御聖蹟について考察を巡らせたいと思います。第1回目は『倭姫命世記』にみられる豊鍬入姫命の御巡行地を辿ります。同床共殿として宮中にお祀りされていた天照大御神がはじめて宮外で奉祀されたのは、『日本書紀』によると、第10代崇神天皇の御代です。大和国の笠籠邑に磯城神籬を立てて御霊代(神鏡)をお祀りされたのですが、それは疫病が蔓延したことが原因のひとつとされています。世記によれば、豊鍬入姫命は今の丹後地方(宮津)に巡行され、一度大和国に戻られ、和歌山に寄られたあと、岡山にも逗留されています。そしてまた大和国に戻られて、三輪山の頂で倭姫命にバトンを継がれるのです。何故三地方に向われ、二度も大和国にお戻りになられたのでしょうか。どうも天神・国神の間関係がありそうですが、本講座にてその謎に迫ります。

日時 1月21日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢国司北畠氏の歴史③ 講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうというシリーズの第3回目。今回は石水博物館所蔵の「北畠満雅御教書」を読みながら、奉者の判を主人が据えたという特異な様式の古文書について考えてみます。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!!

日時 1月24日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢で100年以上続く老舗シリーズ 第一回 伊勢かまぼこ若松屋の歴史と未来 講師 美濃 松謙 (有)若松屋代表取締役・博士(学術)

蒲鉾は日本の食文化です。その歴史や科学的知見はあまり知られていません。魚は世界中にいるけど、蒲鉾は外国にもあるのか？そんな疑問を解いていながら、蒲鉾の魅力に迫ります。美濃松謙さんは若松屋の4代目。若松屋は伊勢の台所と言われた河崎で蒲鉾を製造し始めてから、今年で116年を迎えました。戦時中は魚を仕入れることができず、2代目は鉄工場で労働していた時期もあると聞いています。そんな苦労話を交えながら蒲鉾のあれこれのお話を伺います。ちょっぴり試食もあります。

日時 1月27日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 1,000円 ビジター 1,500円(試食含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢西国三十三所～もう一つのお伊勢参り～④ 講師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

文化庁の日本博事業の一つに選ばれた「伊勢西国三十三所観音巡礼」。伊勢国の観音巡礼は、伊勢神宮周辺から多度大社周辺まで、街道沿いに点在する「観音さま」のお寺39ヶ寺を巡ります。4回目は伊勢やその周辺から離れ、津を経て、鈴鹿、亀山の寺々を巡ります。そこには伊勢神宮の天照大御神の影響を受け、「神仏習合」を色濃く残すお寺や、織田信長の侵攻を受けて焼失した後も人々の力により復興した古刹、徳川家からの篤い信仰を受けた寺など、さまざまな歴史があります。令和の今に伝わる観音さまをひもときます。

日時 2月2日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢参宮と宮川の渡し 講師 太田 未帆

三重県最大の流域面積をもつ宮川。江戸時代の伊勢では「参宮の玄関口」として栄え、無料の渡し船がありました。文政のおかげ参りには、渡し船の利用者は一ヶ月で200万人を超えたと伝えられています。賑やかな宮川の渡し場の様子は、浮世絵や紀行文などにも描かれ、伊勢参宮の象徴的なシーンのひとつといえるでしょう。本講座では、江戸時代の宮川が、地域の人々や参宮客にとってどのような存在であったのかを読み解きます。

日時 2月4日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

漢字の旅「寅・虎・魚・龍」～高先生に学ぶ漢字は面白い～ 講師 高 潤生 書道篆刻家・文字画家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古い結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。「とら」は2022年に何かいい運勢をもたらしてくれるのでしょうか。

甲骨文字の意味を考察し、言霊の神秘の力を考えてみましょう。また中国では、7日後の旧暦正月十五日の上元節は2000年も続いた最大の夜の提灯祭りです。漢詩をとおして古代社会の風俗画卷を紹介します。甲骨文字「寅・虎」を書き、家内安全の守りとしましょう。

日時 2月8日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名



日本書紀 その3 講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

日本書紀は全30巻にも及ぶ大歴史書です。天地開闢から持続天皇までを扱い漢文で記されています。古事記が文学的なものである一方、日本書紀は日本の正史として年代を追って書いています。したがってあまり面白みはないようです。しかし正史としての地位は高く、一時、古事記は偽書とまでいわれ、片隅に追いやられていたほどです。その真価をみいだしたのは本居宣長でした。神話満載の古事記は戦後は皇国史観批判の嵐を浴びて冷遇されましたが、1990年代ころから再び脚光を浴びるようになりました。反対に日本書紀の方の地位は下落してきました。世の中の趨勢によって上がった下がったり、この2書は時代に翻弄されてきた歴史書といえましょう。前回に引き続き日本書紀についての興味あるお話です。

日時 2月8日(火) 18:30～20:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

珈琲焙煎の違いを楽しもう 講師 中村 雅則 日本スペシャルティコーヒー協会コーヒーマイスター

珈琲は豆の種類・引き方・淹れ方などで自分好みの味を楽しむことができますが、焙煎の違いによっても味が大きくかわります。焙煎とは、珈琲の生豆を炒る加熱作業のことです。収穫後の生豆は淡緑色をしていて、味も香ばしさもほとんどありません。また生豆のままでは飲むことはできません。焙煎時間や熱のかけ方の違いによって豆の色は茶褐色(浅煎り)、さらに黒褐色(深煎り)へと変化する。それにとめない豆に含まれる成分も変化し、揮発性の素晴らしい香りや、苦味、酸味、甘味といった珈琲独特の風味が生まれてくるのです。今回の講座では2～3種類の豆を焙煎の度合いを変えて、珈琲の味はどのように変わるのか飲み比べてみます。そして自分好みの焙煎度合いを見つけてみましょう。

日時 2月9日(水) 13:30～15:30 参加費 会員 2,200円 ビジター 2,700円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

鳥羽商船学校と伊勢大湊の市川造船所 講師 伊藤 政光 鳥羽商船高等専門学校名誉教授

伊勢市大湊町において元禄15年から昭和53年まで造船業を営んだ市川造船所は、明治以降の洋式木造船の建造において日本造船史に残る多くの船を建造しました。また大湊より海上5海里的の伊勢湾口に位置する鳥羽に存在する鳥羽商船高等専門学校は、明治の六大教育家の一人である近藤真琴によって明治14年に開校された攻玉社分校鳥羽商船に始まります。今日に至る間商船学校と呼ばれ多くの船員を養成してきました。ここでは市川造船資料から新たに判明した双方の密接な関係を通して時代ごとの海事教育の変遷を見ていきます。

日時 2月14日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

冬の星見とプラネタリウム 講師 毛利 勝廣 名古屋科学館主任学芸員・宇宙博士

冬の星空には、冬の大三角やオリオン座、ふたご座などの有名な星座が見えています。当日は月齢14の月も見えています。晴れたらレーザーで冬の星座をたどったり、望遠鏡で月や星雲をご覧いただきたいです。本館に近い星空を再現したいと進化してきたプラネタリウムは、星空以外にも様々な機能を持つようになりました。世界や日本のプラネタリウムの歴史から、最新の技術までをお話します。(冬は星見に最適ですが、寒いので暖かい服装でお越しください)

日時 2月15日(火) 18:30～20:30 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円(菓菓子・お茶付き)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名 ※菓菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

ひなと煎茶 講師 藤原 和美 皇風煎茶師範・日本現代作法会助教授

茶道は一般的にはお抹茶を中心とする茶の湯の方がよく知られていますが、煎茶は葉茶を用いるお点前です。江戸時代中期にはお抹茶を点てる茶の湯が流行したもので、茶室や道具などが、煎茶は葉茶にとらわれず形にとらわれず茶室として親しまれてきました。今回は文庫点前とすずり茶のお点前を流し進めていただきます。文庫点前は主菓子でいただきます。お煎茶のお道具はとでも可愛らしく、やさしくやさしく取り扱いたいくなります。この時期に何よりの癒しです。

日時 2月22日(火) 13:30～15:30 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(お茶・お菓子代含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

楽しい俳句 講師 石井 いさお 煌星俳句会主宰

わずか17文字に色々なことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずうちに五・七・五になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてくださいます。

期日 12月22日(水)・1月26日(水)・2月23日(水・祝) 時間 各回10:00～12:00 定員 20名
参加費 各回 会員 1,600円 ビジター 2,100円